

2021 年 4 月 26 日

町田市立小中一貫ゆくのき学園の存続 に関する請願

町田市教育委員会教育長 様

小中一貫ゆくのき学園保護者有志  
連絡先：

(請願の要旨)

町田市立小中一貫ゆくのき学園(大戸小学校・武蔵岡中学校)を廃校にしないでください。

(請願の理由)

私達は、町田市立小中一貫ゆくのき学園に通う児童・生徒の保護者有志より結成されたグループです。

今年の3月上旬、私達は「まちだの新たな学校づくり審議会」により町田市内の小中学校について統廃合校の検討を行っていること、そしてゆくのき学園が廃校予定にあることを知りました。

ゆくのき学園は、町田市唯一の小中一貫校として2012年に開校しました。施設一体型と小中一貫教育ならではの長を生かし、児童・生徒一人一人にきめ細やかな9年間の継続的な指導を行う小規模特認校として、学校・保護者・地域が力を合わせて築き上げてきた学校です。

今年の3月といえば、本校開校当時に入學した1年生が、9年生として卒業を迎える時期でした。本校の「きめ細やかな9年間の継続的な指導」を受けてきた初めての卒業生が誕生するこの時期に、このような内容の答申案を作り上げられたという残酷さを、感じずにはいられません。市がこの小中一貫教育の成果を十分に検証しないまま、この理想的教育を手放そうとしていることや、市の主導によって児童生徒や地域・保護者・学校が共に協力し合い作りあげたこの学校を、たった2年間の審議であっさりと切り捨てるようにも映る市の姿勢には、大変落胆しております。

本校は、親子2代で卒業している者も少なくありません。子の母校、我が母校を失う悲しみもありますが、それ以上に、理想的な小中一貫教育を実現し、地域の中心としての役割を果たすと共に、町田市が推進する「小中一貫町田っ子カリキュラム」をけん引する本校が廃校になるということに、大いなる危機感を抱いております。

## 【ゆくのき学園廃校案の問題点】

ゆくのき学園廃校案が招く問題点は次のとおりです。

### ① 町田市唯一の小中一貫校・小規模特認校の損失

ゆくのき学園は、町田市唯一の小中一貫校として、小規模校として、地域・学校・保護者との強い連携を持つ学校として、きめ細やかな教育や理想的な学習環境を実現してきています。この学校だからこそ、子ども一人一人に対して、多くの大人たちが長い年月をかけて丁寧に、指導を行っています。また、子ども同士がじっくりと向き合うことにより、深い相互理解を得られています。

大人数が集まり、切磋琢磨することだけが正しい教育ではありませんし、そのような環境になじむことが出来ずに本校を選んだ家庭や、この特色ある学校で学ぶことを望む子のために、引っ越ししてきた家庭も少なくありません。現状は、通いやすきのほか、子どもの特性も考慮して各家庭が学校を選択しておりますが、学校統廃合によりそれが出来なくなります。

文部科学省は、中学校に進学した際の環境や人間関係の変化がきっかけとなり、不登校になるなどする「中一ギャップ」といった諸問題に対応することを背景に、小中一貫教育を推進しています。町田市の小中一貫教育をリードしている本校を廃校にすることは、市にとって大きな損失ではないでしょうか。私達は、ゆくのき学園の教育が今後も存続し、在学中の子どもたちだけでなく、このような学校を必要とする未来の子どもたちが本校で過ごすことを願っております。

### ② 「ゆくのき学園の総括」が招いた不信感

「まちだの新たな学校づくり審議会」で示された「ゆくのき学園の総括」は、児童・生徒数の推移と、一昨年と昨年に実施されたアンケート回答を中心に構成されています。一昨年に実施された「町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査」において、ゆくのき学園に通う保護者の多くは複数学級が望ましいと回答していました。しかし、このようなシンプルな設問へ対する回答には、「統廃合して複数学級にしてほしい」という思いも、「複数学級も良いけど、単学級も良いよね」という思いも含まれているのではないのでしょうか。

昨年実施された「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査・意見募集」については、ゆくのき学園に通う小学2年生、中学2年生の保護者から得られたアンケート回答を中心に構成されています。このアンケートは新型コロナウイルス感染拡大による混乱のさなか3週間しか募集しなかった、小学2年生29.4%（5人）、中学2年生16.0%（4人）の保護者しか回答しなかったものです。また、審議会では保護者からの意見は2件であると報告されましたが、対象学年以外のゆくのき学園保護者の廃校反対の声は市民から寄せられた「意見」として整理されるのみで、この総括で取り上げられることはありませんでした。

「町田市の新たな学校づくりに関する取り組み」等にご尽力いただいている皆様には大変失礼とは存じますが、この総括について意見を述べさせていただきます。ゆくのき

学園における教育の質についての検証を一切行わず、アンケートで集められたごくわずかな声と、児童・生徒数の推移のみを根拠としているこの総括に、果たして意味があるのでしょうか。このわずかな情報だけで、なぜ「小規模校のデメリット（課題）が影響」していると言い切れるのでしょうか。教育委員会が作成した公文書にもかかわらず、総括があまりにも未成熟で公平性に欠けており、本校に関わる人々への配慮が不足しています。

教育委員会第1回定例会における請願でも、ゆくのき学園の総括の問題点について指摘されました。請願にあったように、小学校校区が相原小、中学校校区がゆくのき学園（武蔵岡中）の中相原地区の子ども達が、多くの友人が進学する堺中学校へ進学するという背景を十分に説明せず、少人数校のデメリットを誇張し、審議会委員の皆様へ「多くの中学生がゆくのき学園を避けている」といった印象を与えたことを認めない教育委員会の対応は、大変残念です。そして、私達の大切な学校であるゆくのき学園のイメージを貶めかねない文章を公文書として残したことは、到底容認することができません。この総括は正していただくよう、お願いします。

### ③ 地理状況への配慮欠如

相原町は東西の距離が約7kmと長く、全域からの通学は時間がかかること、大災害などの緊急時の帰宅が容易ではないことから、この町全体の児童・生徒を小中学校各1校ずつで網羅することは無理があると考えております。市は、統合後の登下校にバスを利用することを想定していますが、町田街道の慢性的な渋滞や、積雪時のバス運休を目の当たりにしている住民や保護者としては、小中学校へのバス利用前提の通学は現実的でなく、バス利用でも徒歩でも通える地域にあるべきであると考えています。また、ゆくのき学園の廃校により、大戸地区を離れる家庭が増加し、地域が衰退することは目に見えています。学校と地域が一体感を持って教育活動に取り組む「地域協働の学校づくり」を掲げてきた市は、地域も巻き込んできたことに対する責任があるのではないですか？これまで懸命に学校づくりに励んできたにも関わらず、はしごを外された地域の心情にご配慮いただけませんか。

少子化が進む中、生徒数が適正人数になるように学校の統廃合を進めるよりも、児童や生徒の安全面や地域活性化を考えた学校配置を考えるほうが大切だと思います。市が学校を地域の拠点として考えているのであれば、大戸地区にも学校はあるべきです。

審議会でも、委員の方から「地理状況から考えれば、こういう学校があってもいいのかな」といった発言がありましたとおり、地理状況から考えて、ゆくのき学園は存続していただきたいです。

### 【ゆくのき学園が持つ特色】

次に、ゆくのき学園が持つ特色を述べます。

#### ① 恵まれた立地環境

関東山地と多摩丘陵の境界部に位置する大戸地区にあるゆくのき学園は、周囲を山林

に囲まれており、学校敷地のすぐ隣にある学校林では、里山活動を主とした授業が行われています。広い敷地には「ふれあい広場」があり、そこでは現在、2頭のヤギを飼育しています。このほか学校には芝生校庭や、夏になるとゲンジボタルがみられる「ほたるの里」があり、いずれも地域・学校・保護者が管理を行っています。いずれも子どもたちに良好な学習環境を提供するとともに、本校に集う全ての人へ安らぎを与えています。

## ② 地域との連携

学校名にある「ゆくのき」は、大戸地区に自生するマメ科の落葉高木で、絶滅危惧植物のユクノキに由来しています。この名前を提案されたのは、地域の方々だと伺っております。このように、本校と地域は、共に歩んできた歴史があります。

春の運動会では、地域の方々が飾り付けをして下さいます。冬の持久走大会では、手作りの横断幕を掲げて、声援を送って下さいます。初夏に音楽家をお招きして開催されるスクールコンサートでは、素敵なお音楽を披露して下さった音楽家や、来場した地域の方や保護者へ花束が贈られます。この花束は、地域の方がご厚意でこの日のために毎年育てて、ご準備下さるものです。

登校時の見守りや、授業の一環で行う米作り、里山活動や自然観察など、いずれもゆくのき学園で学ぶ子どもたちのことを思って協力して下さる地域の方々が存在があって、成り立っています。

## ③ 小学生と中学生がともに学ぶ学校

ゆくのき学園は、施設一体型一貫校であることを生かし、充実した小中連携を行っています。主な取り組みとして、9年間の教育を小中教員が連携すること、学校行事を小中の教員や児童生徒が協力し合って共同運営すること、小学5年生から部活に参加し、約5年間じっくりと取り組むことが挙げられます。

ゆくのき学園の小学生と中学生は、同じ校舎で学校生活を共にしており異学年間や小中学生同士も大変仲が良いです。他の学校では見かけないこの様子を見て、近隣の大学生が大変驚いていたことがありました。運動会では、小中学生が互いに熱い声援を送り、フォローしあっています。学習発表会では、中学生の劇を見て小学生が大笑いし、小学生の発表を中学生が微笑ましく鑑賞しています。このほか、中学生が小学生に勉強を教え、絵本の読み聞かせを行うなどの取り組みが評価されています。

近隣の小中学校が時々行う学校交流と、日常を共に過ごす学校生活とでは、「小中一貫教育」の重みが違います。

ゆくのき学園廃校の噂を発端にしたアンケートが、3月中旬に保教の会(PTA)により行われました。募集は公平な立場で行われ、その期間はわずか3日間であったにもかかわらず、148家庭数のうち99通の回答があり、そのほとんどは廃校反対の意見でした。これは、未

回答を含む全家庭数の少なくとも 6 割近くが廃校反対を表明したことになります。このアンケートについては、第 13 回審議会において「審議会からの答申後、お寄せいただきましたご意見の内容を踏まえて、教育委員会で計画の進め方を検討してまいりたいと考えています」と説明がありました。是非、これらの声を尊重していただきたいと思います。

同じ時期の約 2 週間、地域ではゆくのき学園の存続を願う署名活動が行われました。多くの商店や自治会、駅のご協力をいただき行われた署名活動により、3469 筆の署名が集められました。また、署名のコメント欄には、在校生、卒業生、保護者、地域の方など多くの方から、廃校しないでほしいとの切実な声が記されていました。

これら 3469 筆の署名の声をお察しいただき、ゆくのき学園を廃校にしないようご配慮のほどよろしくお願い致します。